



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年9月10日号

編集 / 毎日新聞社カスタマーリレーション本部

労働問題一筋の弁護士、その心境は？

迫る



「労働弁護は金にならない」というのが、弁護士界での常識と言われます。その中で、棗（なつめ）一郎さん（61）＝写真＝は労働問題を専門としてきました。これまで関わった裁判では「日本マクドナルド店長残業代請求事件」など、日本の労働問題を浮き彫りにしてきました。

リーマン・ショックで多発した「派遣切り」によって、仕事と住む場を失った労働者が一気に増え、社会問題になりました。棗さんは食事と寝る場所を派遣労働者に提供するために、2008年末から09年年始にかけて、東京・日比谷公園で「年越し派遣村」を仲間と一緒に開設し、運営に奔走

10日(日) = 1、3面
しました。派遣村のインパクトは大きく、労働者の保護を強める派遣法改正につながりました。プライベートは裕福な生活と言えず、娘から進路相談を受けた時に「我が家の現実」を語ったこともありました。労働問題一筋の弁護士の行動と、その心境に迫ります。



大河ドラマ60年

10日(日) = 総合面

NHK大河ドラマは開始から60年を迎えました。第1作は大老・井伊直弼を描いた「花の生涯」で、現在放送中「どうする家康」は62作目になります。これまでどんな時代が描かれてきたのか、

最高視聴率ほどの作品なのかなど「トリビア」的な内容になっています。また最近の傾向についても言及します。時代劇研究家のペリー荻野さんにも考察してもらいました。



NHK大河ドラマ「どうする家康」の舞台となった三重県伊賀市と滋賀県甲賀市境の御斎峠からの光景

論点



大工不足が深刻化 15日(金)オピニオン面

大工不足が深刻化しています。工期に間に合わせるために、休日も働かなければならないのが実情です。そのため若者が敬遠され、急速に高齢化が進んでいます。10年から20年後には、家を建てたくても「大工さん待ち」という状態になると言われています。工務店などでは、外国人の人材を育成するなどして、人手不足に対応しようとしています。大工不足からは日本社会の構造的な問題も浮かび上がります。専門家に話を聞きました。

特集 **ワイド** 本当にあるの？「サラリーマン増税」



政府税制調査会の会合で中里実会長(左)から答申を受け取る岸田文雄首相

「サラリーマン増税」が取り沙汰されています。電車の定期券代や老後の蓄えとしてあてにする退職金への課税が強化されるのでは――。そんな懸念が広がりました。給与から税金を天引きされる

11日(月) = 夕刊2面
サラリーマンは、気がついたら手取りが目減りしている、なんていう心配はないのでしょうか。来年度の税制改正に向けた議論が本格化するのを前に識者に増税の現実味を読み解いてもらいました。



詳しくはQRから。
(渡部竜之介)

将棋の第71期王座戦五番勝負が開幕、藤井聡太名人が全8タイトルを独占する注目が高まっています。13日にオンラインイベント「毎日新聞×HERO Z 将棋AIが読み解く藤井名人8冠への挑戦」を開催します。日本将棋連盟公認「将棋ウォーズ」プロデュース・石井直樹さんが「木村一基九段とともにAI超えの一手」を繰り出す藤井名人の思考プロセスに迫ります。

